

2021年4月7日
イノベーションマネジメント株式会社 芝尾芳昭

PMAJ SIG 推進部会長殿

SIG 新設提案書（設立趣意書）

1. 新設提案 SIG 名

「チェンジマネジメント SIG」

2. 提案者(発起人)

芝尾 芳昭 (イノベーションマネジメント株式会社)

小野 弘貴 (イノベーションマネジメント株式会社)

※メンバーは今後募集

3. 活動の目的

ビジネス環境の変化のスピードが速くなるとともに企業の競争環境も激しさを増し、これまでの勝ち組がいつの間にか負け組となることも珍しくない時代となっており、このような変化の激しい競争環境を勝ち抜いていくには、企業の置かれた環境変化をいち早くとらえ企業がその環境において常に適合し最適となれるように「進化」し続けていくことが不可欠となります。

しかし、「進化」するにはこれまでの常識を見直しやり方を変え「変化」することが必要となりますが、残念ながら変化に対しては常に潜在的な抵抗が存在し、その抵抗が変化することを阻害し、変化への取り組みが目的を達成できず失敗に終わる重要な要因にもなっております。Michael Hammer によれば BPR(Business Process Re-Engineering:業務変革)の失敗確率は 50~70%にも上り、そしてその要因の多くが人に起因することがわかっています。この変化の活動の多くはプログラム・プロジェクト活動として行われており、変化の失敗はとりもなおさずプログラム・プロジェクトの失敗と同意義となってきました。イノベーションを実現するにも、組織やプロセスを変革するにも「変化」は不可欠であり、その「変化」を上手くマネージできるかできないかによって成功の確率は大きく変わってきます。

変革を成功に導くためのマネジメントは「チェンジマネジメント」として知られておりますが、グローバルとして体系だった手法は確立されておらず様々なやり方が存在し、異なるアプローチが様々な変革プログラム・プロジェクトで実践されているのが現状です。一方で P2M の扱うプログラムにおいては新規事業プログラム、業務変革プログラム、組織変革プログラム、デジタル変革プログラムなど大きな変化を求めるプログラムが増える傾向にあり、変革のメカニズムとそこに関わる人の行動を正しく理解し、変革プログラムを成功に導く P2M としての「チェンジマネジメント」の手法の確立の重要性は増してきていると感じております。

「チェンジマネジメント SIG」では、業界・業務を問わず変革プログラムを成功させるための方法論を整備し、P2M のプログラムマネジメントの価値を高め、企業の推進するプログラムの成功確率を向上させることを目的に活動を推進して参ります。

4. 活動内容

- (1) 「チェンジマネジメント」の定義
- (2) 変革プログラムにおける障害と失敗要因の分析
- (3) 変革プログラムにおける「チェンジマネジメント」実践事例の共有
- (4) 変革プログラムの重要課題と主成功要因の抽出・整理
- (5) 変革プログラムの推進プロセスの整理
- (6) P2M としての「チェンジマネジメント」の体系化

5. 活動成果の PMAJ へのフィードバック

次のような方式を想定する。

- ①活動状況、中間成果短針などの PMAJ ジャーナル、オンラインジャーナルへの発信
- ②同じく、月例会 B での発表
- ③ある程度まとまった活動成果の年次 PM シンポジウムでの発表
- ④活動の節目ごとの活動報告書の作成

6. 活動期間

まずは 2 年程度を想定する。

7. メンバーの募集方法と運営ポリシー

(1) メンバー募集方法

- ・ PMAJ HP を通じての公募と SIG メンバーとなった方の紹介
- ・ 次の条件を満たす方
 - 上記活動内容のいずれかにインプットを提供できる方
 - 活動の記録を文書化するなど、SIG の運営に貢献できる方

(2) 運営ポリシー

- ・ SIG 会合は月 1 回程度、メンバーで合意した時間帯に開催とし、中間の意見交換などは e-Mail や PMAJ のグループウェア等を使用して行う。会合は SIG メンバーで会議室を提供できる企業を巡回して行う。状況によりオンライン会議も想定する。
- ・ 運営はメンバー間の Give & Take 原則に基づく。
- ・ 情報交換に当たっては、企業機密保護の原則に抵触しないよう留意する。
- ・ 折に触れて SIG 外の知見のある方を招いて創発セミナー・ワークショップを開催する。

8. PMAJ にとってのメリット

- 新たな方法論、アプローチを取り込むことで P2M の更なる発展が望め、それを通じた PMAJ の社会貢献の高まりが期待できる。
- PMAJ 会員が集って共通の関心事について掘り下げた研究活動を行うことで、PMAJ への求心力を高める。
- このような SIG の存在により PMAJ の会員獲得への PR 効果が期待でき、また産業界への PMAJ のアピールとなる。

9. 予算措置

別途検討

以上